

生駒市 景観計画

景観形成基準設定の考え方

■奈良県の基準からの変更箇所

		景観形成基準設定の考え方	区域	景観形成基準追加内容(案)
共通		・田園集落の景観を保全するとともに、周辺に残る緑と調和した景観形成への配慮を求める。	田園	・うるおいの感じられる田園風景等と調和した景観となるように配慮する。
		・本市のシンボルである生駒山などの緑を大切にするため、緑の中で目立つものについて景観上の配慮を求める。	自然	・生駒山系、矢田丘陵の緑は、市街地などからの視対象であることに配慮する。
建築物	配置規模及び高さ	・生駒山などについて、眺望景観への配慮を求める。	自然	・遠景からの眺望に配慮し、周辺の地形や樹木との調和を図る。
		・山稜の近くでは、稜線を乱さないよう配置、高さへの配慮を求める。	市街地 田園 自然 幹線	・山稜の近傍にあつては、建物の妻側を稜線に合わせる等、稜線を乱さないよう配慮した配置及び高さとする。
		・「歴史的な遺構が残っているところ」はほとんどないため、記述を削除する。	市街地 田園 自然 幹線	・行為地内に良好な樹木等がある場合は、これをできる限り保全し、活用する。
	形態及び意匠	・中高層建築物については、壁面が空間を一面に隠すことがないように配慮する。また、屋根の形状にも配慮を求める。	市街地	・中高層建築物にあつては、壁面が長大にならないよう、分節化等の工夫を施す。 ・屋根の形状は周辺の状況に応じ、勾配屋根とするよう努める。又は、パラペットの形状により、勾配屋根に類似した工夫を施す。
		・山稜へ配慮した屋根の形状とする。	市街地	・屋根の形状は周辺の状況に応じ、勾配屋根とするよう努める。又は、パラペットの形状により、勾配屋根に類似した工夫を施す。
		・屋上施設についても、修景により、露出させないように配慮を求める。	田園 自然 幹線	・屋根の形状は、できる限り勾配屋根とするよう努める。 ・屋根の形状は周辺の状況に応じ、勾配屋根とするよう努める。
		・良好な沿道景観を形成するため、広告物の取り扱いに配慮を求める。	市街地 幹線	・屋上施設は屋根の中に収めるか、壁面の立ち上げにより修景を行い、露出させないように配慮する。 ・建築物に取り付けられた広告物については、建築物の意匠として計画する。
		・緑の中では明るい色が目立つため、明度の基準を厳しくする。	自然	・基準値の明度を奈良県の基準より1段階落とす。
建築物・工作物	緑化	・道路から見られる景観に配慮するため、緑化は幹線道路沿道側に施す。	幹線	・行為地は樹木等により緑化し、行為地内の緑化面積は行為地面積の3%以上とし、原則として沿道側に配置する。
		・道路から見られる景観に配慮するため、緑化は道路沿道側に施す。	市街地 田園 自然	・行為地は樹木等により緑化し、行為地内の緑化面積は行為地面積の3%以上とし、原則として道路側に配置する。
開発行為		・本市においては地形上擁壁が多く、擁壁が景観に与える影響が大きいため、前面だけでなく、上部についても景観への配慮を求める。	市街地 田園 自然	・擁壁は、良好な周辺景観と調和した形態及び素材又は前面若しくは頂部に緑化を図るなど配慮する。

市街地：市街地景観区域 田園：田園景観区域 自然：自然景観区域 幹線：広域幹線沿道区域

※生駒駅北口再開発地区の景観形成基準については、生駒市の顔となる市街地景観を形成するため、独自の基準を設定します。

■色彩基準について

- ・生駒市では、自然景観区域については奈良県の基準より明度を1段階厳しくし、住居系用途地域、工業系用途地域、商業系用途地域については、奈良県の基準を踏襲するものとします。
- ・生駒駅前北口再開発地区については、商業系の基準を適用しますが、地区の統一感を出すために、アントレいこまの色を「再開発色」として、建築物などの基調色とします。

住居系用途地域：第1種・第2種低層住居専用地域、第1種・第2種中高層住居専用地域、
第1種・第2種住居地域、準住居地域
工業系用途地域：準工業地域
商業系用途地域：近隣商業地域、商業地域

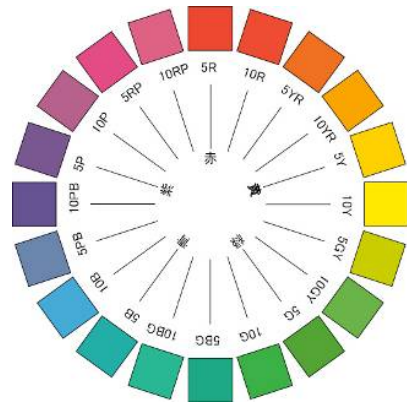
◇色彩とは

色彩は、色相（色あい）、明度（あかるさ）、彩度（鮮やかさ）の三要素からなっており、そのいずれかが変化することにより色彩が微妙に変わります。

これらの変化による色彩について、国際的な尺度である“マンセル表色系”を用いて表現することが多くなっていることから、本書でもこの“マンセル表色系”によって表現することとします。

<色相>

色あいを表します。赤(R)・黄(Y)・緑(G)・青(B)・紫(P)の5色と、それぞれの間の黄赤(YR)・黄緑(GY)・青緑(BG)・青紫(PB)・赤紫(RP)の5色の中間色相を加えた10色の色相が基本になります。



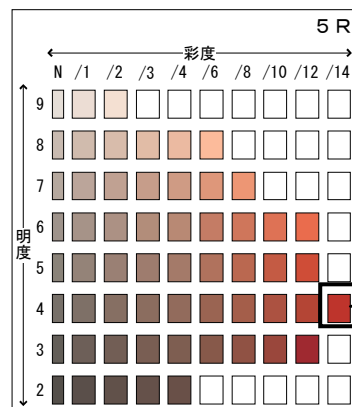
<マンセル色相環>

<明度>

明るさを表します。完全な黒を0、完全な白を10として、この間を等間隔に11段階に分けたものです。

<彩度>

鮮やかさを表します。色のない無彩色を0として色の鮮やかさの度合いにより数字を大きくしていきます。なお、彩度は上記の色相と明度によって最大値が異なります。

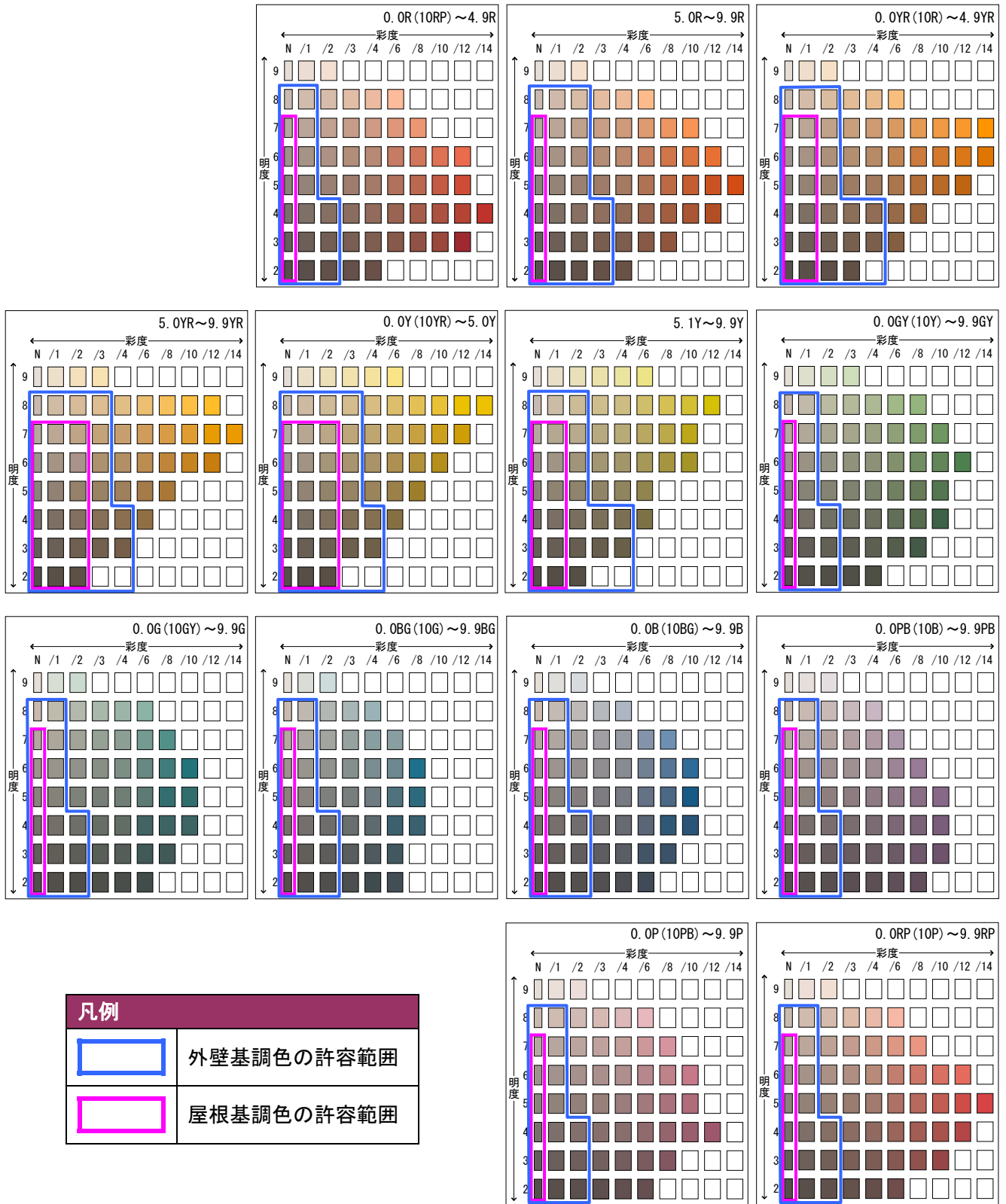


色相 明度 彩度
5R 4.0/14.0
(5アール4の14)

<色相5Rの明度と彩度>

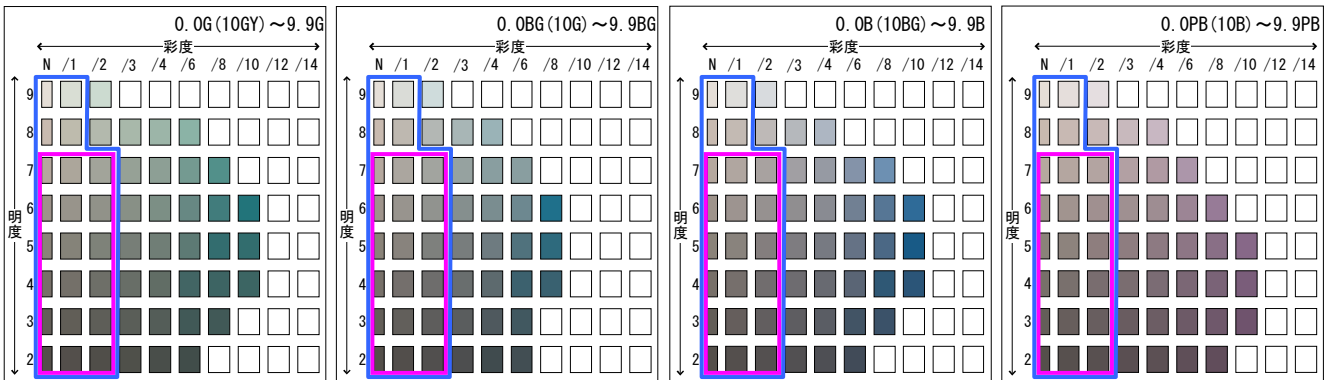
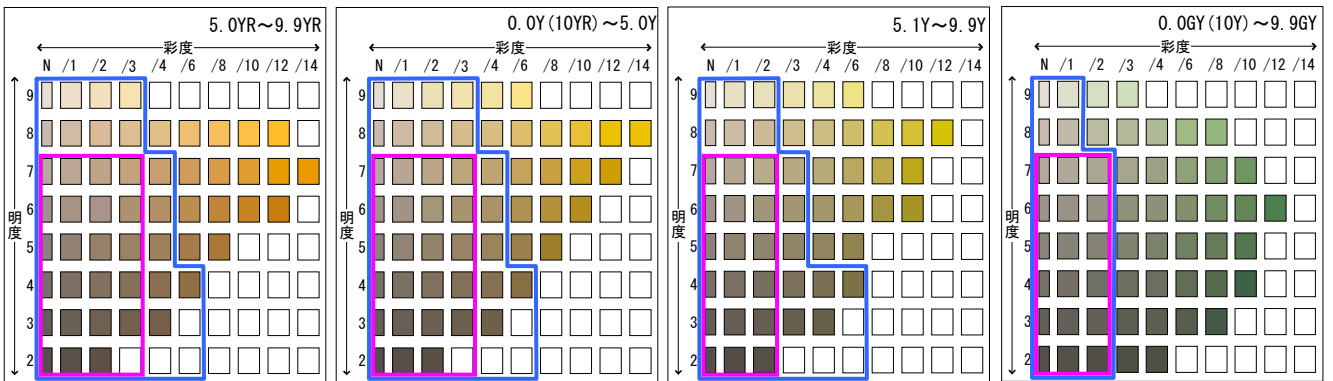
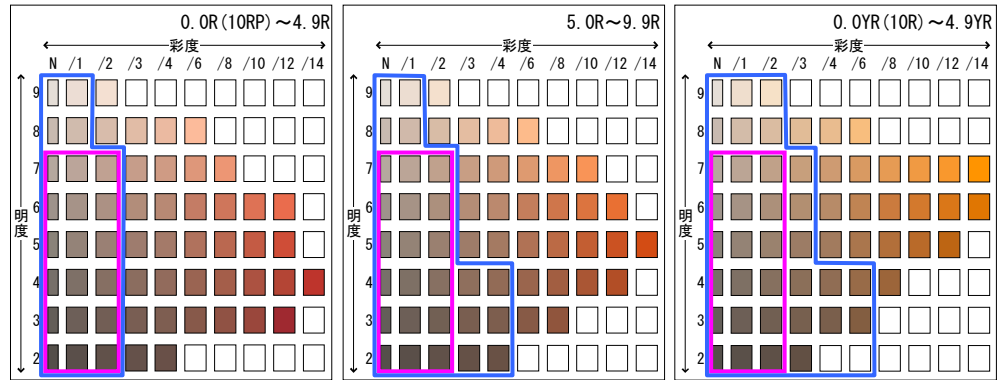
【奈良県の色彩基準のイメージ】

自然系地域

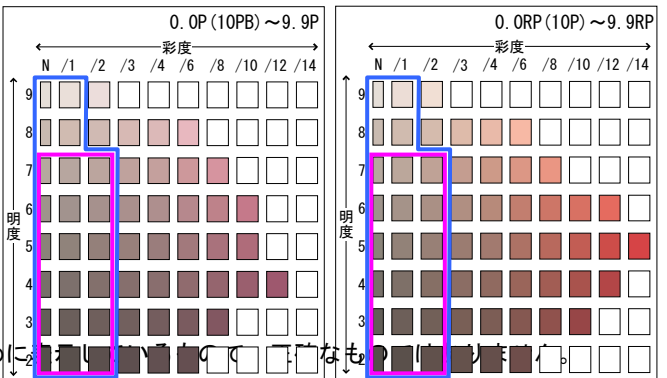


(注) 表示されている色は色彩をイメージしやすくするために表示しているもので、正確なものではありません。

住居系地域

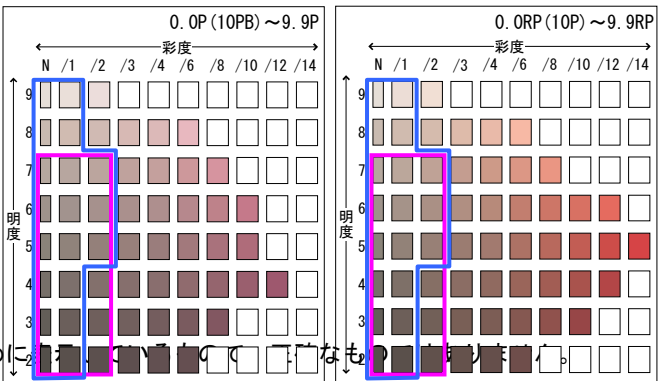
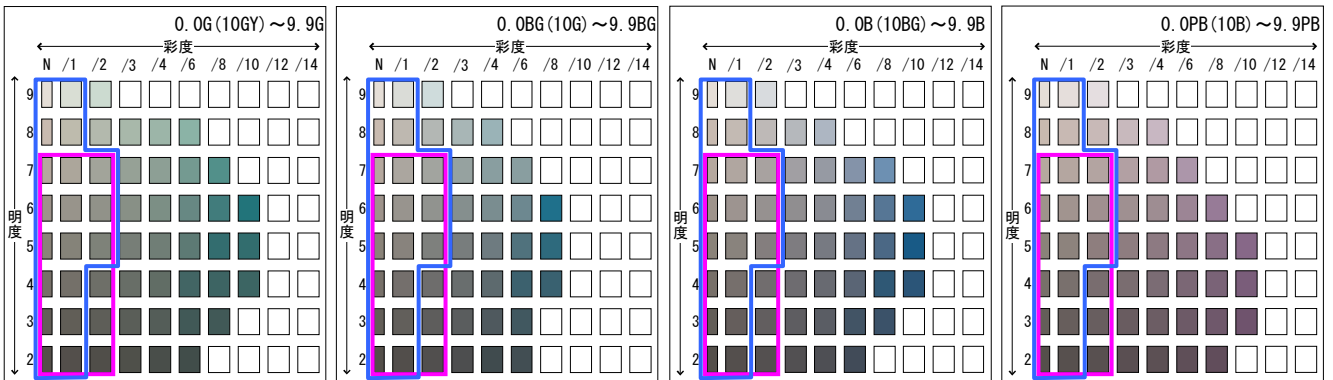
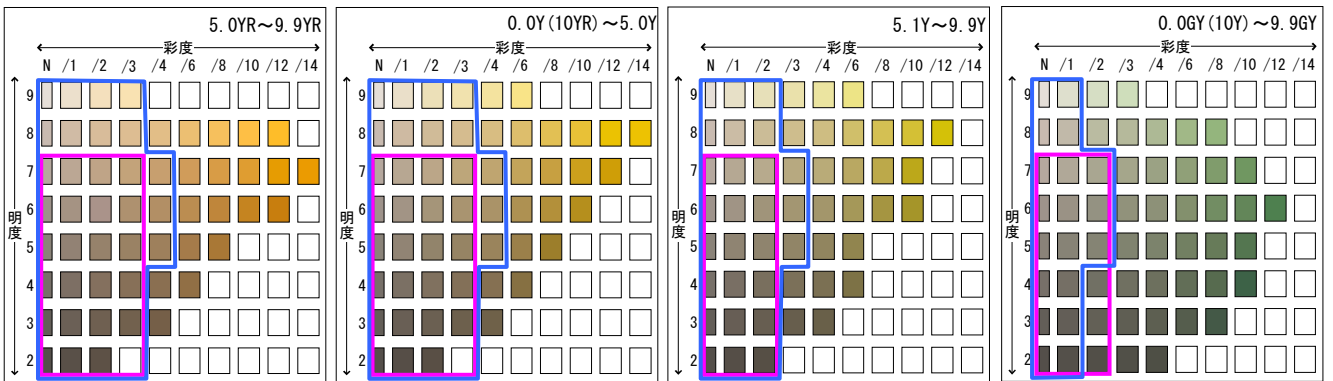
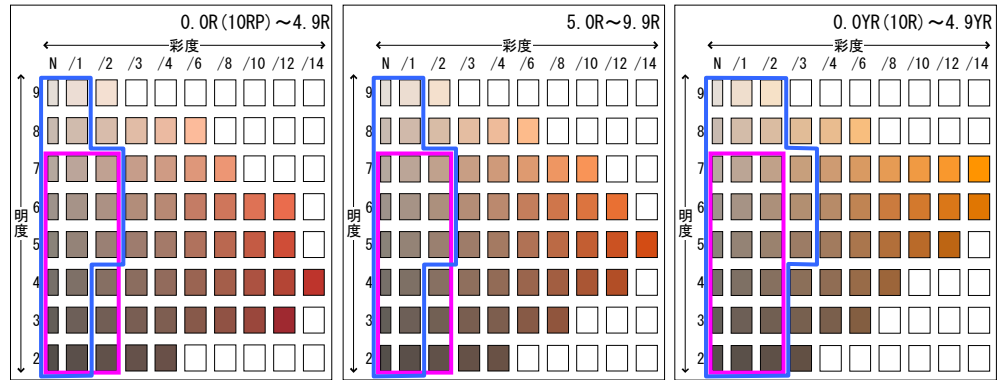




凡例	
	外壁基調色の許容範囲
	屋根基調色の許容範囲



(注) 表示されている色は色彩をイメージしやすくするために、若干の調整を施しています。

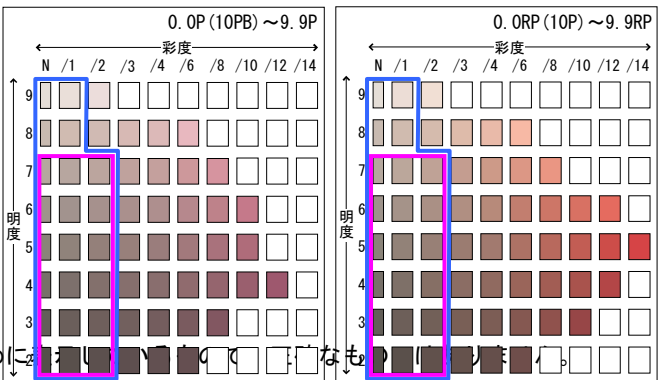
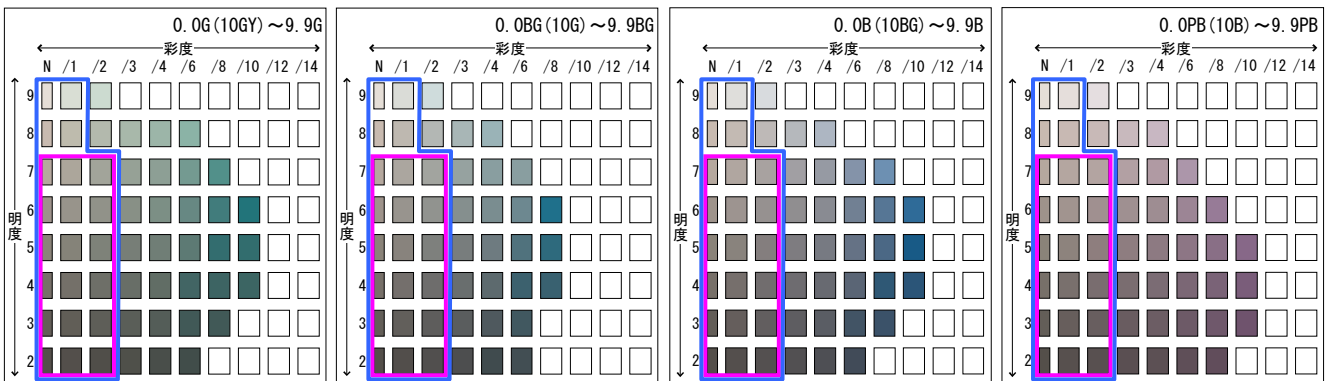
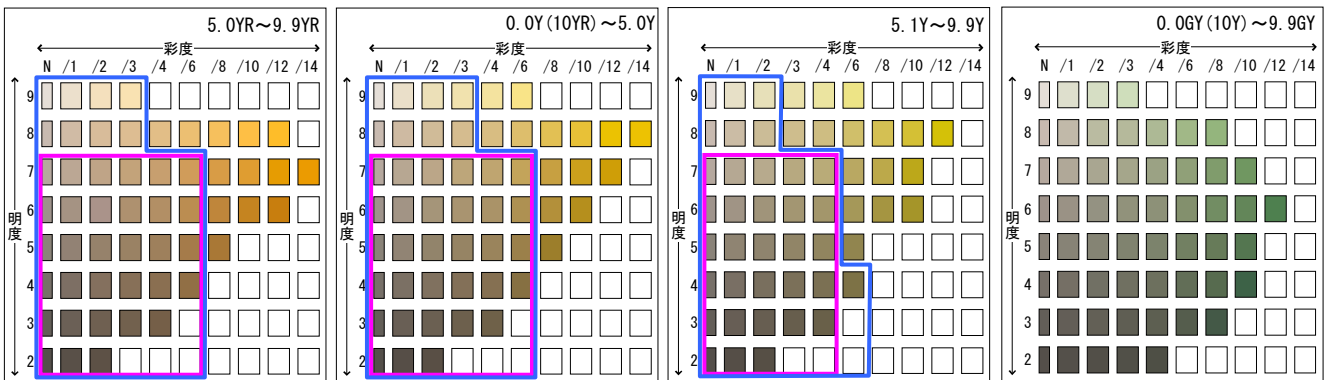
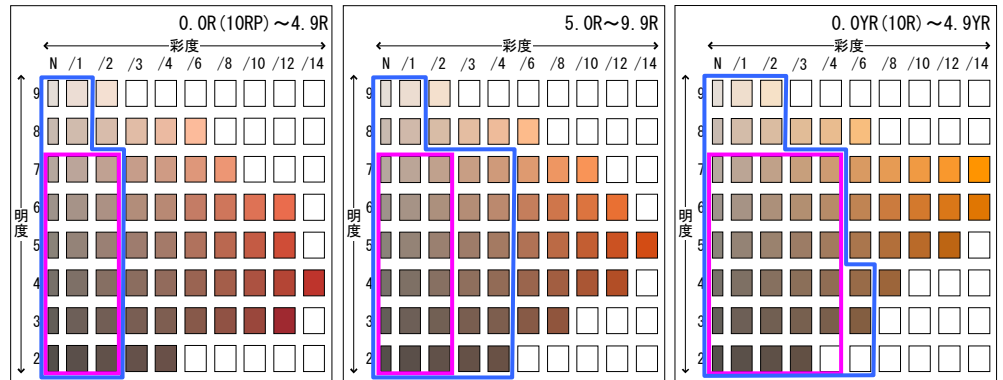
工業系地域




凡例	
	外壁基調色の許容範囲
	屋根基調色の許容範囲

(注) 表示されている色は色彩をイメージしやすくするために補正して表示しています。

商業系地域

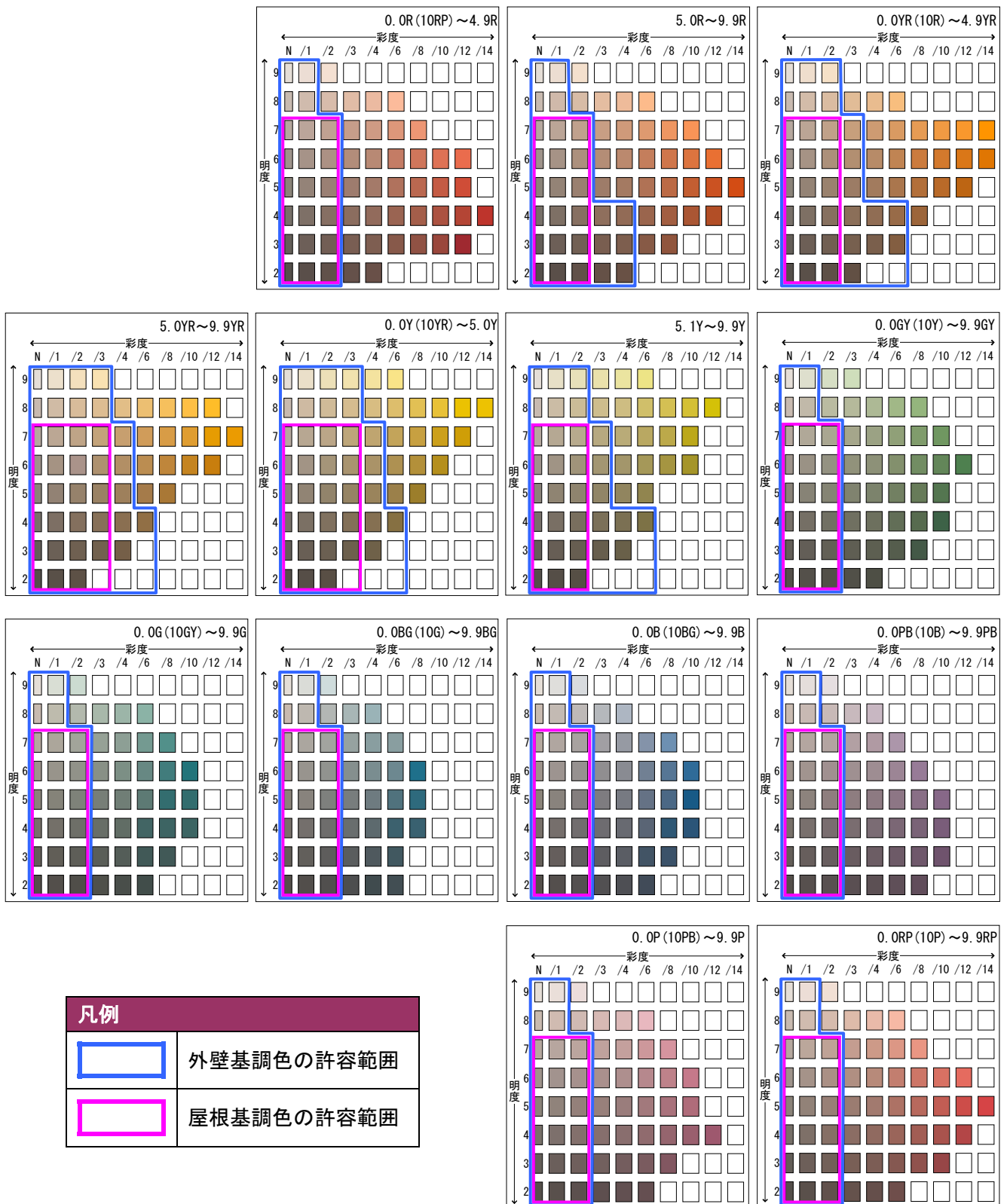


凡例	
	外壁基調色の許容範囲
	屋根基調色の許容範囲

(注) 表示されている色は色彩をイメージしやすくするために、若干の調整を施しています。

【生駒市の色彩基準のイメージ】

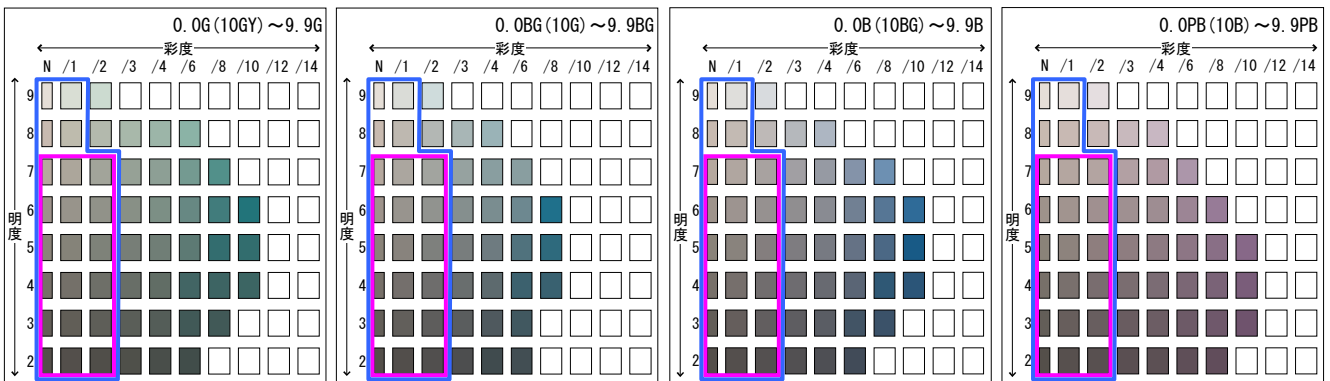
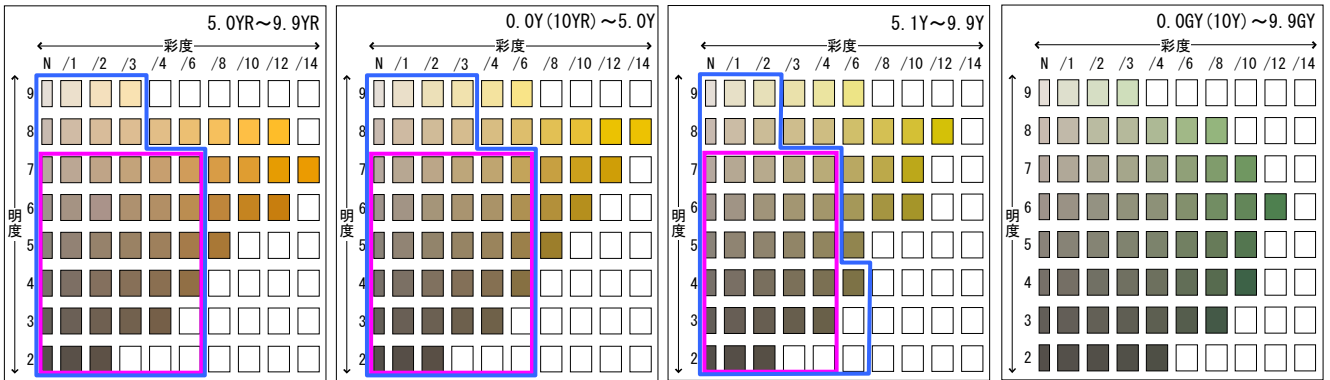
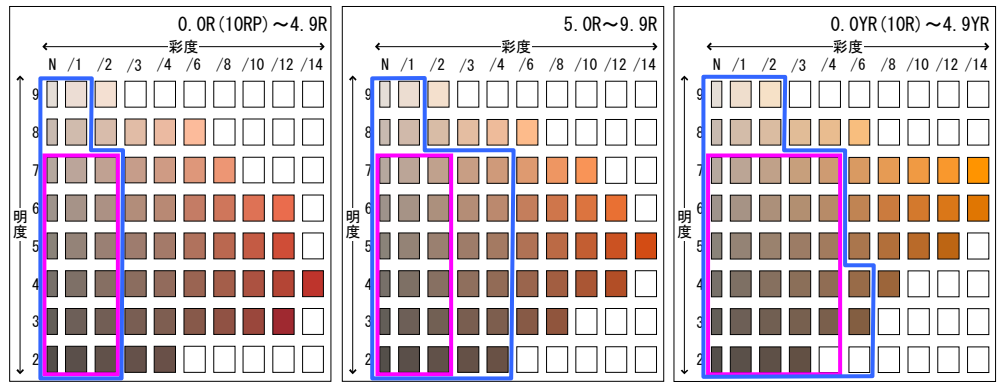
市街地景観区域—住居系





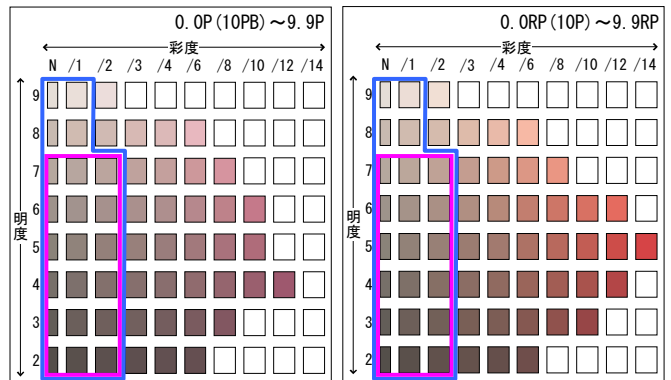
凡例	
	外壁基調色の許容範囲
	屋根基調色の許容範囲

(注) 表示されている色は色彩をイメージしやすくするために表示しているもので、正確なものではありません。

市街地景観区域—商業系

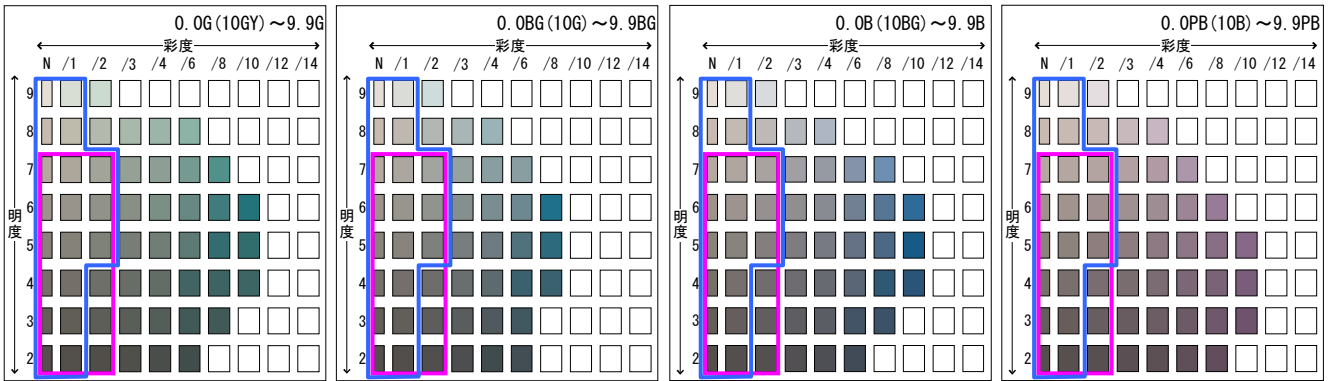
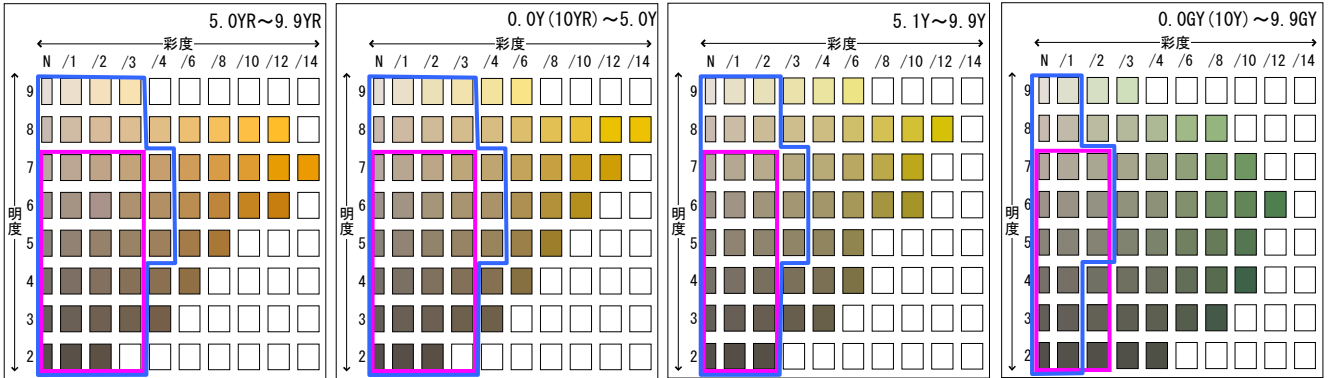
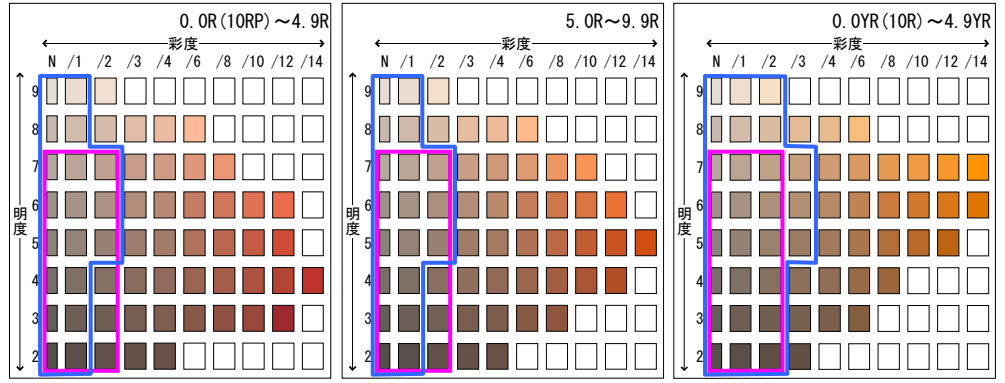




凡例	
	外壁基調色の許容範囲
	屋根基調色の許容範囲

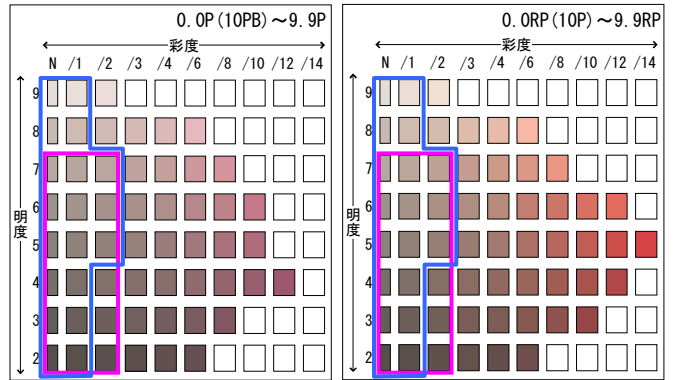


(注) 表示されている色は色彩をイメージしやすくするために表示しているもので、正確なものではありません。

市街地景観区域—工業系

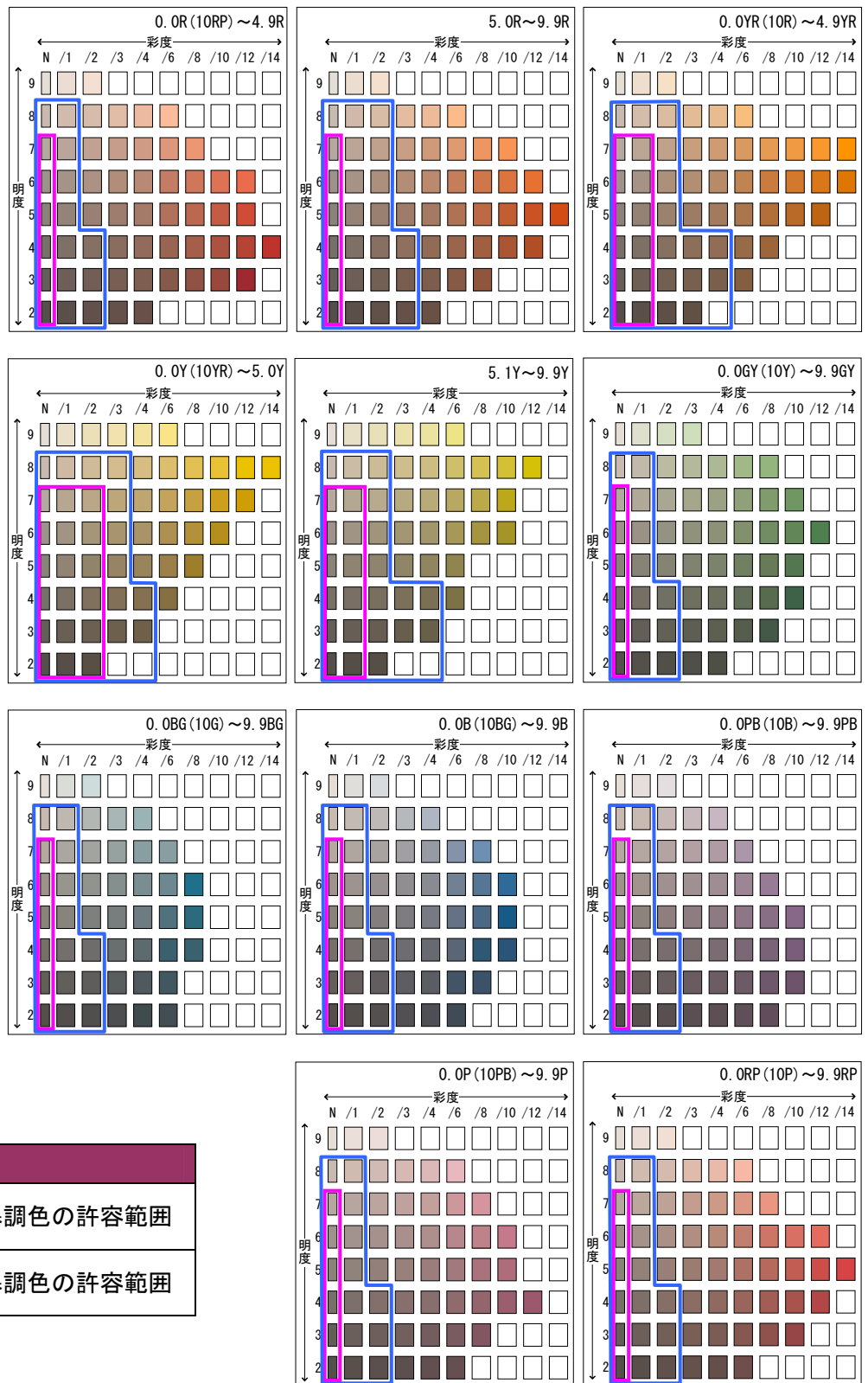



凡例	
	外壁基調色の許容範囲
	屋根基調色の許容範囲



(注) 表示されている色は色彩をイメージしやすくするために表示しているもので、正確なものではありません。

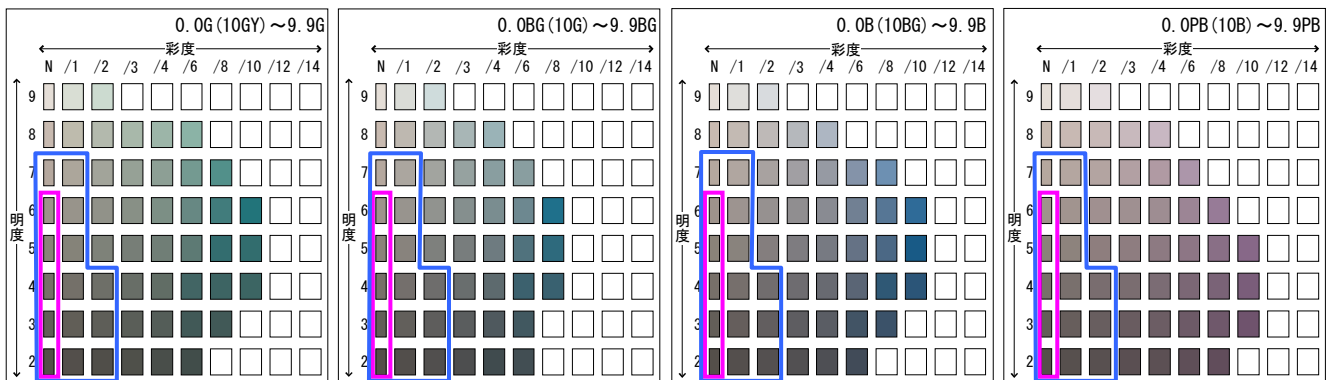
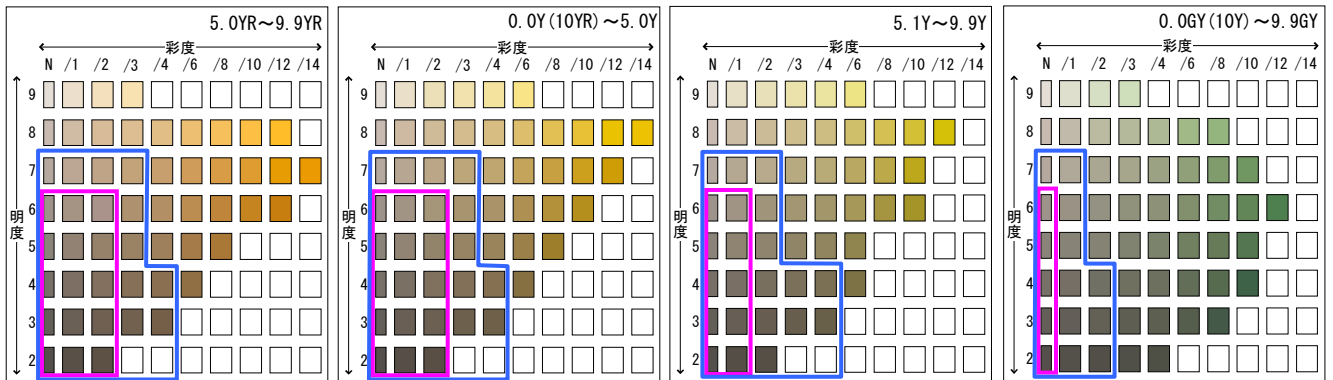
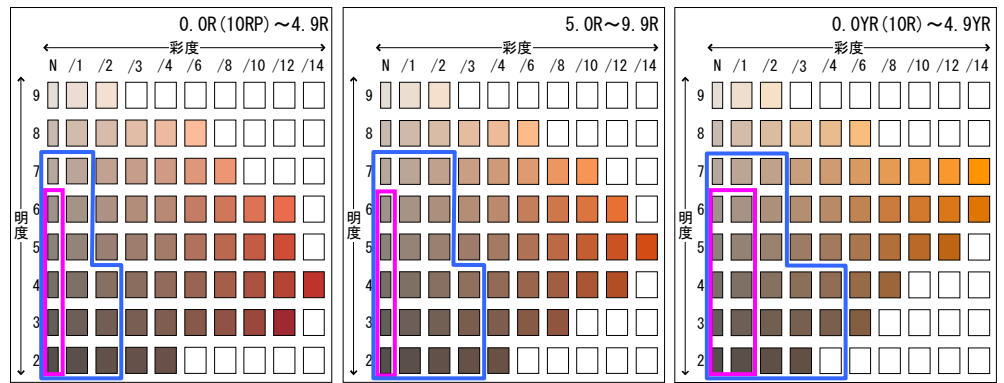
田園景観区域



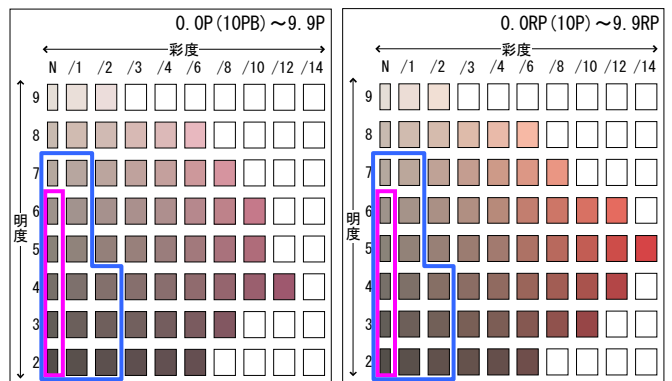
凡例	
	外壁基調色の許容範囲
	屋根基調色の許容範囲

(注) 表示されている色は色彩をイメージしやすくするために表示しているもので、正確なものではありません。

自然景観区域



凡例	
	外壁基調色の許容範囲
	屋根基調色の許容範囲



(注) 表示されている色は色彩をイメージしやすくするために表示しているもので、正確なものではありません。

景観配慮地区—景観形成地区—広域幹線沿道地区

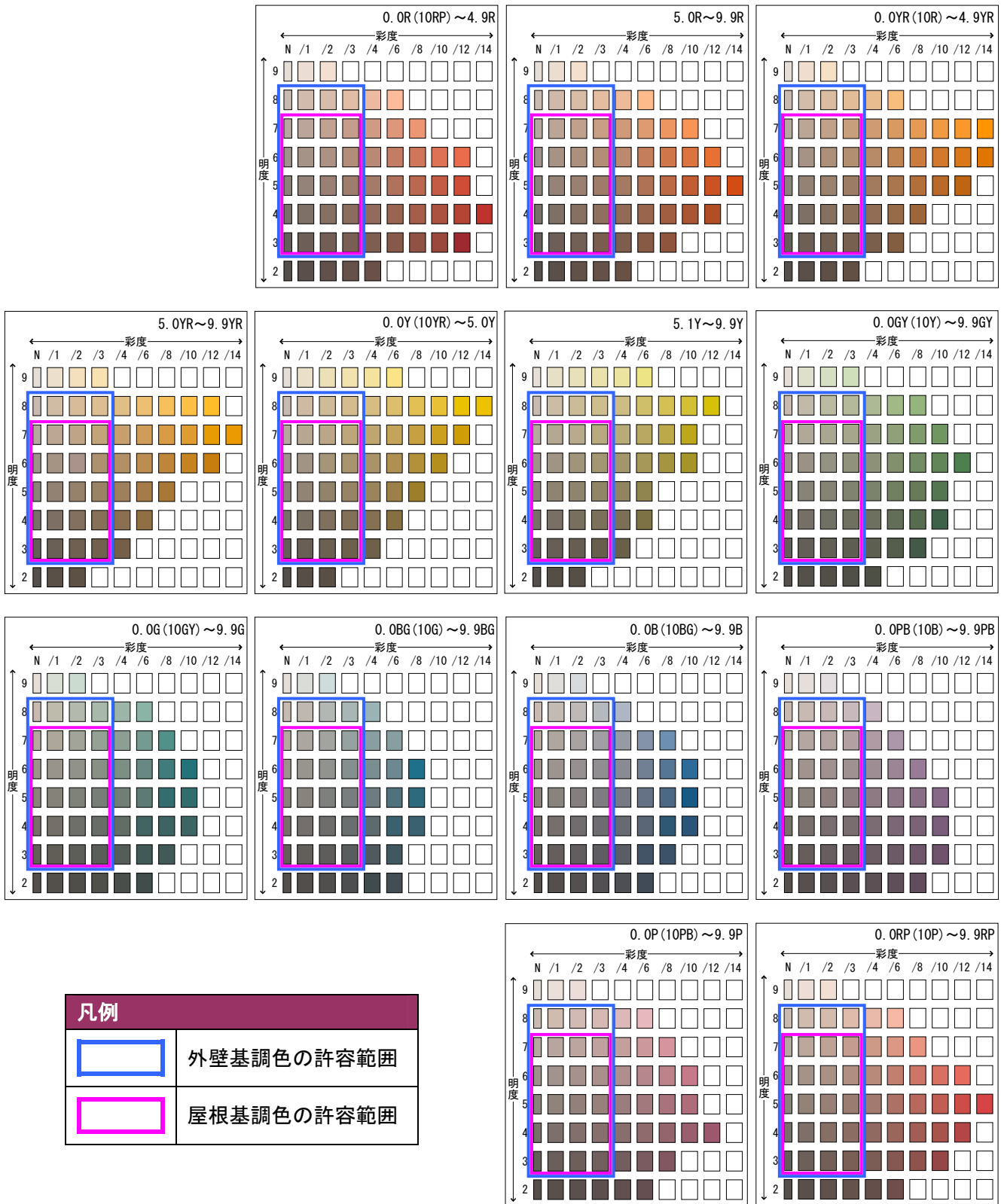
景観配慮地区の景観形成地区のうち、広域幹線沿道地区については、田園景観区域の自然系と市街地景観区域の住居系、商業系、工業系、田園景観区域、自然景観区域と同じ基準とします。

景観配慮地区—景観形成地区—生駒駅前北口再開発地区

景観配慮地区の景観形成地区のうち、生駒駅前北口再開発地区については、以下のとおりとします。

- ・建築物の外壁、工作物の外観の基調色は、色相に関わらず、マンセル値による明度が3以上8以下、彩度が3以下。
- ・建築物の屋根の基調色は、色相に関わらず、マンセル値による明度が3以上7以下、彩度が3以下。

景観配慮地区—景観形成地区—生駒駅前北口再開発地区



(注) 表示されている色は色彩をイメージしやすくするために表示しているもので、正確なものではありません。

(参考) 県景観計画の色彩基準

種類	基調色												強調色			
	自然系地域			住居系地域			工業系地域			商業系地域			全ての地域区分			
	市街化調整区域			住居系用途地域の区域(*1)			工業系用途地域の区域(*2)			商業系用途地域の区域(*3)						
色相区分	明度	彩度	備考	明度	彩度	備考	明度	彩度	備考	明度	彩度	備考	明度	彩度	備考	
建築物の外壁・工作物の外観	0.0R(10RP)~4.9R	8.0を超える	—	使用不可	8.0以上	1.0以下		8.0以上	1.0以下		8.0以上	1.0以下		全明度 使用可	全彩度 使用可	各立面の面積の1/5 (高さ31m超又は建築面積3000㎡超の建築物等の場合は1/10)の面積まで使用可 周辺の景観との調和や基調色との調和を考慮し、主に建築物等の中低層部で用いるようにする。
		5.0以上8.0以下	1.0以下		5.0以上8.0未満	2.0以下		5.0以上8.0未満	2.0以下		5.0以上8.0未満	2.0以下				
		5.0未満	2.0以下		5.0未満	2.0以下		5.0未満	1.0以下		5.0未満	2.0以下				
	5.0R~9.9R	8.0を超える	—	使用不可	8.0以上	1.0以下		8.0以上	1.0以下		8.0以上	1.0以下				
		5.0以上8.0以下	2.0以下		5.0以上8.0未満	2.0以下		5.0以上8.0未満	2.0以下		5.0以上8.0未満	4.0以下				
		5.0未満	3.0以下		5.0未満	4.0以下		5.0未満	1.0以下		5.0未満	4.0以下				
	0.0YR(10R)~4.9YR	8.0を超える	—	使用不可	8.0以上	2.0以下		8.0以上	2.0以下		8.0以上	2.0以下				
		5.0以上8.0以下	2.0以下		5.0以上8.0未満	3.0以下		5.0以上8.0未満	3.0以下		5.0以上8.0未満	4.0以下				
		5.0未満	4.0以下		5.0未満	6.0以下		5.0未満	2.0以下		5.0未満	6.0以下				
	5.0YR~9.9YR	8.0を超える	—	使用不可	8.0以上	3.0以下		8.0以上	3.0以下		8.0以上	3.0以下				
		5.0以上8.0以下	3.0以下		5.0以上8.0未満	4.0以下		5.0以上8.0未満	4.0以下		5.0以上8.0未満	6.0以下				
		5.0未満	4.0以下		5.0未満	6.0以下		5.0未満	3.0以下		5.0未満	6.0以下				
	0.0Y(10YR)~5.0Y	8.0を超える	—	使用不可	8.0以上	3.0以下		8.0以上	3.0以下		8.0以上	3.0以下				
		5.0以上8.0以下	3.0以下		5.0以上8.0未満	4.0以下		5.0以上8.0未満	4.0以下		5.0以上8.0未満	6.0以下				
		5.0未満	4.0以下		5.0未満	6.0以下		5.0未満	3.0以下		5.0未満	6.0以下				
	5.1Y~9.9Y	8.0を超える	—	使用不可	8.0以上	2.0以下		8.0以上	2.0以下		8.0以上	2.0以下				
		5.0以上8.0以下	2.0以下		5.0以上8.0未満	3.0以下		5.0以上8.0未満	3.0以下		5.0以上8.0未満	4.0以下				
		5.0未満	4.0以下		5.0未満	6.0以下		5.0未満	2.0以下		5.0未満	6.0以下				
	その他の色相	8.0を超える	—	使用不可	8.0以上	1.0以下		8.0以上	1.0以下		8.0以上	1.0以下				
		5.0以上8.0以下	1.0以下		5.0以上8.0未満	2.0以下		5.0以上8.0未満	2.0以下		5.0以上8.0未満	2.0以下				
		5.0未満	2.0以下		5.0未満	2.0以下		5.0未満	1.0以下		5.0未満	2.0以下				
	無彩色	8.0を超える	—	使用不可	8.0以上	0	使用可	8.0以上	0	使用可	8.0以上	0	使用可			
		5.0以上8.0以下	0	使用可	5.0以上8.0未満	0	使用可	5.0以上8.0未満	0	使用可	5.0以上8.0未満	0	使用可			
		5.0未満	0	使用可	5.0未満	0	使用可	5.0未満	0	使用可	5.0未満	0	使用可			
建築物の屋根	0.0R(10RP)~4.9R	—	—	使用不可	7.0以下	2.0以下		7.0以下	2.0以下		7.0以下	2.0以下		0		
	5.0R~9.9R	—	—	使用不可	7.0以下	2.0以下		7.0以下	2.0以下		7.0以下	2.0以下				
	0.0YR(10R)~4.9YR	7.0以下	1.0以下		7.0以下	2.0以下		7.0以下	2.0以下		7.0以下	4.0以下				
	5.0YR~9.9YR	7.0以下	2.0以下		7.0以下	3.0以下		7.0以下	3.0以下		7.0以下	6.0以下				
	0.0Y(10YR)~5.0Y	7.0以下	2.0以下		7.0以下	3.0以下		7.0以下	3.0以下		7.0以下	6.0以下				
	5.1Y~9.9Y	7.0以下	1.0以下		7.0以下	2.0以下		7.0以下	2.0以下		7.0以下	4.0以下				
	その他の色相	—	—	使用不可	7.0以下	2.0以下		7.0以下	2.0以下		7.0以下	2.0以下				
	無彩色	7.0以下	0	使用可	7.0以下	0	使用可	7.0以下	0	使用可	7.0以下	0	使用可			

(注) 建築物の屋根の色彩には、陸屋根の防水層の色彩を含む。

(注) 工作物には、開発行為、土地の形質の変更、物件の堆積にともなう柵・塀の新設等を含む。

*1 住居系用途地域：第1種・第2種低層住居専用地域、第1種・第2種中高層住居専用地域、第1種・第2種住居地域、準住居地域

*2 工業系用途地域：準工業地域、工業地域、工業専用地域

*3 商業系用途地域：近隣商業地域、商業地域